

令和四年高知県支部「秋の俳句大会」募集句成績

令和四年十月二十三日(日)

於 高知共済会館三階

大会賞(土肥あき子特選)

涼風や胡坐の中に子のあぐら 宿毛市 宮尾 直美

宮相撲大きな熨斗の米俵 高知市 近藤 勝

四万十川に一礼をして田水張る 土佐清水市 山崎紀美子

秀逸

白雨いま漁夫の半裸を叩きをり 高知市 山本 呆齋

黙禱を済ませ稲刈りしてをりぬ 四万十市 大林 文鳥

はかどらぬ身辺整理蝸牛 須崎市 土居 銀花

爽やかや言葉かざらぬ人とみて 高知市 中平 孝子

潮鳴りは追憶の詩仏桑花 高知市 山本 敏子

佳作

今朝すこし足に力や小鳥来る 高知市 前川 恵女

雲の峰乗せて巨船の遠ざかる 室戸市 安岡みさき

くらがりに鯉泳ぎある立て絵かな 高知市 松林 朝蒼

三軒に二軒は空家千日草 高知市 浜田 節

自適とはこんな格好昼寝覚 高知市 橋本 絹子

大土佐の国褒めうたや鯨来る 香南市 乾 真紀子

がつぷりを決めて動かぬ喧嘩蜘蛛 四万十市 弘田 幸子

月光を浴び行水を了へにけり 香美市 野村 里史

語り部の戦闘帽や秋暑し 土佐清水市 山本 昭文

俎板は鯨のかたち胡瓜揉 黒潮町 徳廣由喜子

蚯蚓鳴く派遣てふ身の安からず 高知市 西岡登美子

記念樹のえんぴつの木よ小鳥来る 四万十町 藤原佳代子

もの言ひはなしと行司や蜘蛛合せ 四万十町 中平キリン

早春の匂ひまとひて曾孫来る 高知市 山本あけはる

余白なき濠の白蓮自刃の地 香南市 那須三智子

味元昭次特選

くらがりに鯉泳ぎある立て絵かな
高知市 松林 朝蒼
蚯蚓鳴く派遣てふ身の安からず
高知市 西岡登美子
法師蟬しづかに人の壊れゆく
高知市 近藤 勝

岡崎桜雲特選

涼風や胡坐の中に子のあぐら
宿毛市 宮尾 直美
大土佐の国褒めうたや鯨来る
香南市 乾 真紀子
雲の峰乗せて巨船の遠ざかる
室戸市 安岡みさき

石坂陽太郎特選

なかんづく熟るるあけびやうふふふ
高知市 山本 敏子
白雨いま漁夫の半裸を叩きをり
高知市 山本 呆齋
仔猫きて皿の増えたる余生かな
宿毛市 宮尾千鶴子

乾真紀子特選

涼風や胡坐の中に子のあぐら
宿毛市 宮尾 直美
もの言ひはなしと行司や蜘蛛合せ
四万十町 中平キリン
地球史は挿話の一つ天の川
高知市 宮尾 祐幸

植田紀子特選

潮鳴りは追憶の詩仏桑花
高知市 山本 敏子
反論はひと言氷水をのむ
宿毛市 宮尾 直美
余白なき濠の白蓮自刃の地
香南市 那須三智子

松林朝蒼特選

四万十川に一礼をして田水張る
土佐清水市 山崎紀美子
うぐいすの夜宮に鳴いて海しづか
高知市 大窪 雅子
黙禱を済ませ稲刈りしてをりぬ
四万十市 大林 文鳥

亀井雉子男特選

涼風や胡坐の中に子のあぐら
宿毛市 宮尾 直美
語り部の戦闘帽や秋暑し
土佐清水市 山本 昭文
記念樹のえんぴつの木よ小鳥来る
四万十町 藤原佳代子

山本呆齋特選

爽やかや言葉かざらぬ人とゐて
高知市 中平 孝子
自適とはこんな格好昼寝覚
高知市 橋本 絹子
早春の匂ひまとひて曾孫来る
高知市 山本あけはる

高知県支部「秋の俳句大会」当日句成績

大会賞

潮騒も肴のひとつ今年酒

高知市 広末 風蘭

行く雲や私はここで大根蒔く

高知市 小島久美子

杖つくを忘れて巡る花野かな

いの町 川添 弘幸

秀逸

土佐晴れの果てへと鷹のわたりけり

高知市 山本 杲齋

発掘の課外授業やゑのこ草

四万十町 藤原佳代子

三人で走り三番秋日和

黒潮町 徳廣由喜子

八十路には八十路の狂気レモン喰む

高知市 石坂陽太郎

秋草を活けて三代女系なり

高知市 田村 乙女

佳作

風わたる野にありてこそ吾亦紅

四万十市 稲田 喜子

ヘルパーてふ天使のみたり神無月

高知市 前川 恵女

秋収め産土神に幟立て

四万十市 弘田 幸子

括りてもなほおほらかに乱れ萩

高知市 楠瀬るみ子

腰に鎌田仕舞の火を育てをり

四万十市 中平キリン

ふるさとは夜も木の実の落ちるころ

高知市 田中 杏

曼珠沙華村に一つの掲示板

四万十市 大林 文鳥

秋茄子や嫁と呼ばれた日もありぬ

高知市 横山須磨子

揺れもどす風の白さやそばの花

高知市 山本 敏子

気づかれず見つけもされず木の実落つ

いの町 平井 静江

土肥あき子特選

発掘の課外事業やゑのこ草

四万十町 藤原佳代子

土佐晴れの果てへと鷹のわたりけり

高知市 山本 杲齋

がいに言う土佐の男や柚子しぼる

須崎市 土居 銀花

高知県俳句連盟会長 味元昭次特選

鹿鳴いて旅の便りを五行ほど

四万十市 亀井雉子男

三人で走り三番秋日和

黒潮町 徳廣由喜子

行く雲や私はここで大根蒔く

高知市 小島久美子

俳人協会高知県支部長 岡崎桜雲特選

ふるさとは夜も木の実の落ちるころ

高知市 田中 杏

虫の闇その闇にみな眠りけり

四万十市 亀井雉子男

菊日和家出の猫はどのあたり

いの町 平井 静江

俳人協会高知県支部副支部長 石坂陽太郎特選

牛売りにて帰る夜更けの秋の雨

いの町 川添 弘幸

括りてもなほおほらかに乱れ萩

高知市 楠瀬るみ子

行く雲や私はここで大根蒔く

高知市 小島久美子

俳人協会高知県支部副支部長 乾真紀子特選

大土佐の大秋晴を旅の師に

香美市 岡崎 桜雲

ヘルパーてふ天使のみたり神無月

高知市 前川 恵女

行く雲や私はここで大根蒔く

高知市 小島久美子

俳人協会高知県支部顧問 植田紀子特選

八十路には八十路の狂気レモン喰む

高知市 石坂陽太郎

真実はひとつぎくろの爆ぜる頃

高知市 近藤 敏子

暮るるには少し間のある鴨の陣

高知市 大窪 雅子

俳人協会顧問高知県支部顧問 松林朝蒼特選

秋収め産土神に幟立て

四万十市 弘田 幸子

遙かより子どもの声や木の実降る

宿毛市 宮尾 直美

暮るるには少し間のある鴨の陣

高知市 大窪 雅子

俳誌「四万十」主宰 亀井雉子男特選

風わたる野にありてこそ吾亦紅

四万十市 稲田 喜子

秋収め産土神に幟立て

四万十市 弘田 幸子

雑草といふ草は無し草の花

高知市 今田 幹雄

俳誌「梨花」主宰 山本 呆齋特選

杖つくを忘れて巡る花野かな

いの町 川添 弘幸

おなもみを付けし来客信用す

佐川町 味元 昭次

百歳の藁打つ祖母の夜長かな

高知市 山本あけはる